

第3回 学期制検討に関する懇談会（小田原市立小・中学校） 会議概要

- 1 日時 平成30年10月18日（木）15時00分～16時45分
- 2 場所 小田原市生涯学習センターけやき 4階 第2会議室
- 3 出席者 石塚 等 堀 賢一郎 栗畑寿一郎 遠藤 清子
初瀬川孝夫 八木 規孝 岩田真由美 中村 栄江
本多 忠幸 寺内 浩司 上村 勝治
大木 富男 土谷 隆之
<教育委員会>
内田 里美 友部 誠人 飯田 義一 石井美佐子
鈴木 一彦
<事務局>
高田 秀樹 大須賀 剛
- 4 配布資料
 - ・次第・レジュメ 名簿
 - ・第3回学期制検討に関する懇談会 開催要項
 - ・第2回懇談会…平成30年6月6日 会議概要
 - ・資料A 実態調査・アンケート調査 まとめ 11ページ
 - ・資料B 平成30年8月7日付け文部科学省通知（平成30年8月27日付け市教委文書）
『学校の夏季における休業日に関する児童生徒等の健康確保に向けた対応等について』
 - ・補足資料【委員用】 実態調査・アンケート調査 詳細・原簿 計60ページ分
内訳 小学校教職員16P・中学校教職員9P・小学校保護者15P・
中学校保護者6P・小学校評議員11P・中学校評議員3P
- 5 傍聴者 1名

6 会議内容

<p>1 開会</p> <p>2 内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・懇談会の公開について ・市PTA連絡協議会から益田さんの代わりに土谷さんにご出席いただいている。 ・資料の確認 ・日程について
<p>(1) 実態調査の概要 ～確認～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 第2回懇談会（前回・6月6日）会議概要 ・ 第2回懇談会（前回・6月6日）懇談会資料Aから 	
<p>○事務局から説明</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・対象、実施時期、調査項目等について再確認。
<p>○質問・意見</p>	<p>なし</p>
<p>(2) 実態調査の集計結果について</p> <p>① 集計結果の報告</p>	
<p>○事務局から説明</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・資料Aについて、各項目の見方について説明。 さらに補足として、11ページのうち、P5（4）について説明する。現在、学級担任として、子供と特に多く接する年代が20代・30代であるということ、また、20代・30代については、これから10年先の教育会における中心的な年代でもあることから、年代から何か特徴がないか調査するために、年代ごとに集計したのが、P5（4）の表である。 ・補足資料について説明 → 元となる集計結果である
<p>○部会長から補足</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・部会メンバーで集計を行った。部会を経て、公開をふまえた11ページにまとめた。 ・『補足資料』から資料Aを作成するために、代表的な文言をのせた。
<p>○質問・意見</p>	<p>なし</p>
<p>(2) 実態調査の集計結果について</p> <p>② 意見交換</p>	
<p>事務局</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な意見が出ている中で、「学期とは何か」、「学期制とは何か」など、本質的な質問が出ている。石塚教授には今日の懇談の中でその点にふれていただきたい。
<p>進行</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・区分を切らずに意見交換していきたい。

<p>石塚</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・石塚先生には最後に伺いたいと思うのがか。 ・最初に話した方がよいと思う。学期とは定まっているようで定まっていない。年度は4月1日から3月31日であることは文科省の省令で定まっている。学期については特に書いていない。学校教育法の施行例には、所管の教育委員会が定めるとあり、教育委員会の専権事項である。決め方を学校に委ねる場合もある。法令の中には定義はなく、年間の授業の計画をつくる上での期間。3学期制が多いのは、日本の慣習、文化から根付いてきていると考えられる。 ・2学期や2期制は平成14年度あたりから、平成10年度からはじまった「ゆとり教育」、「完全学校週5日制」に移行するにあたって導入されたところが多い。土曜日の授業が2時間から0時間になり、授業をどのように確保するかというのが、2学期制のはじまりである。 ・それぞれにメリット、デメリットがあるが、どちらにするにしても、これからの動きを注視しながら、状況が変わってくることを頭に入れていく必要がある。平成30、31年度は新学習指導要領への移行措置で授業が増える。平成32年度からさらに増えていく。各学年およそ1コマ増えていくこと等をふまえて考えていかなければならない。来年度は天皇が即位する年であり、祝日が増えることも授業時間に影響する。再来年度のオリンピックも同様である。
<p>進行</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・順番に意見を伺いたい。
<p>部会長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・調査結果に「2学期制になりテストの回数が減っている」との意見も出ていたが、回数については2学期制導入前の3学期制のときから変わっていないことを確認したい。給食回数については市として検討していただきたい。 ・小学校保護者は3学期制賛成の意見が多いが、意見を見ると夏休み中の不安をうったえる意見が多い。この期間の学習を保証していく必要があると感じた。
<p>栗畑</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・調査結果を見て、教職員と保護者のとらえ方がこんなにも違うんだということを一番感じた。 ・学校現場としては、今やっていることをなぜ変えるのかというのが大勢の意見。平成18年度に2学期制に移行したときの経験がある教職員は、当時の混乱がまたくるのかという危惧を持っている。 ・学期制＝通知表を出す、出さないとの印象があるようだが、夏休み前に面談等を行い、夏休みに向けた課題について生徒、保護者に伝えている学校がほとんどである。 ・学校としては、成績を何回も出すことが負担になる。 ・授業時数確保が大変である。千代中では、給食のない日も弁当を持参してもらい6時間授業を行うなどの対応をしている。3学期に戻すと、始業式、終業式などの行事をやるだけで授業は削られる。 ・数字を見ると、いろいろな議論になるが、現場が混乱しないようにすすめていきたい。
<p>遠藤</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・時数の確保が大変であり、外国語活動等が入ってきており、混乱している。変わ

初瀬川	<p>るときに子供たちが一番困ると思われる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年の夏の猛暑で、厳重警戒レベルの教室もたくさんあった。そのような中、授業数が増えることが心配である。 ・給食の回数も話題に出ているので、それについても検討していただきたい。 ・通知表の回数が増えることは教職員の多忙化から避けたい。 <p>・日本の文化やイメージなどから3学期制がよいととらえることが多いが、実質的なことを考えると、いろいろな面を変えていくことは負担がかかる。教頭会でも意見を聞いたが、2学期制の中で、運用面で3学期制のように工夫して進めている学校もある。</p> <p>・白鷗中学校の気温を記録した手持ちの資料を用意した別紙。立地の条件もあるが、特別教室を担当する教師はこれらの環境で授業を行うことは非常に厳しい。</p>
八木	<ul style="list-style-type: none"> ・学校現場としては2学期制になったとき、突然だった印象がある。導入時は2学期制の利点を説明したが、その後は説明がないので、保護者のアンケート結果に影響している。導入時は現場の意見を反映される流れではなかった。 ・評価については子供を見る期間が長くなったので、評価しやすくなっているので、2学期制になってよかったと感じている。 ・現在、来年度の時数を計画している。授業時数の確保にあたって、学期制以外の様々なことも含めて考える必要がある。変えていくことによって考慮しなければならないものが増えるので負担が多い。
岩田	<ul style="list-style-type: none"> ・変えることによる教職員の不安を集計しながら感じた。変えることは混乱を招く。 ・授業時数の確保が一番の課題であり、今から来年度の計画に頭を悩ましている。 ・保護者の意見の中で、夏休み前に評価をもらうことによって夏休み中の課題が見えるとの意見があった。夏休み前に教育相談を行っているが、今後はよりその点を補うような内容にしていく必要がある。
中村	<ul style="list-style-type: none"> ・集計をしながら感じたことは教職員、保護者とも自身の経験が影響していると感じた。 ・授業時数の確保について、保護者に実感してもらう働きかけが少なかったかもしれない。 ・中学校では2学期制を行いながら、3学期制の良さを取り込みながら工夫している。 ・全部を変えていくと、学校側の負担、生徒や保護者の戸惑いが多いことが心配される。施設面や成績評価など、多角的に検討していく必要がある。
本多	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの学校で生徒に学習の課題をもたせるための取組を行っている。今週も担任はもちろん、担任以外の教員も含めた教育相談などを行っている。 ・保護者のアンケートを見て、3学期制がよいとの意見が多いが、2学期制による利点を伝えるアピールが足りなかったと思う。

寺内	<ul style="list-style-type: none"> ・立場によって意見が分かれており、はっきりした結果が出てこなかった。懇談会の流れがいかされると考えると責任を感じている。 ・現場では、子供と向き合う時間を確保したいと考えている。様々な工夫をして時間を生みだしている中、変えることによる負担の増加が懸念させる。
上村	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者のコメントを見た。自身の経験、成績の回数による意見が多かった。「教員の時間を増やすのではなく、生徒に関わる時間を増やしてほしい」という声があった。教員を増やすことができればよいが、別の課題である。 ・何かを増やせば、何かを減らさざるを得ない。子供たちと関わる時間や授業の準備が減ってしまうのは避けたい。
大木	<ul style="list-style-type: none"> ・親としては学期＝成績という感覚を持っている。多く評価してもらった方がよいが、子供も馴染んでいるので、このままでよいと思う。ただし、前期の最後に成績表をもらい、2～3日経って、すぐに後期が始まるのはどうか。夏休みの数日を秋に動かして、少し長く秋に休みが取れないかと思う。
土谷	<ul style="list-style-type: none"> ・当初、学期制は何でもよいと思っていた。子供のために何がよいかと考えたときに、先生方に余裕があるこのままの方がいいと思った。変えたときの混乱の中にいる子供がかわいそう。 ・教員の多忙化について、他市町の校長と話したことがあった。学校は即戦力がほしいと話していたので、校内で育てていけばよいのでは、と意見した。その校長は、その時間も十分がないので、即戦力が必要と話していた。そこまで学校が忙しいのかとショックを受けたのを覚えている。
石塚	<ul style="list-style-type: none"> ・学期制について、1年の課程の中の期間、区切りと話したが、成績評価とも密接に関連している。一番大きな点は成績評価になる。学期の区切りには、儀式的な行事があるが、そのような行事を削ることで授業時数を確保する意味合いもあった。 ・保護者は自分の経験から答える傾向にあるので、このような調査結果になったと思われる。3学期制がよいという調査からの意見をふまえて、どのような取組をするかという点が大事になる。保護者の意見をどのように反映するかが必要になってくる。 ・教員が子供たちと向き合う時間をもつこと、教員の多忙を少しでも解消するために働き方改革の点を意識してほしい。学校現場が混乱しない方向で結論を出すことが大事だと思う。
進行	<ul style="list-style-type: none"> ・その他に意見はあるか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・気温に関する資料の提供や給食の問題という点でも意見があった。教育委員会からも意見を出していただきたい。
川口	<ul style="list-style-type: none"> ・空調設備については、現在、来年度の設置に向けて業者に係るプロポーザルの段階である。来年1月から作業に入る予定である。6月末までの予定。

堀	<ul style="list-style-type: none"> ・特別教室については、今回の普通教室とは別に並行してすすめていく。 ・3年ごとに見直しを行っている給食費の検討委員会で、変更はなかったので、現段階で変えていく意向はない。 ・空調設備、給食については、日数が増えればコスト的な面で影響が出てくる。給食費の面で保護者の負担に影響が出る。 <ul style="list-style-type: none"> ・特別教室は特に劣悪な環境である。美術室は端に追いやられたような場所である。文化面を育む教科で使用する特別教室のエアコンも配慮していただきたい。 ・給食はない日が多い方が保護者の不満が多い。ぜひ必要な日数を確保していきたい。それについての保護者への説明は学校もがんばっていきたい。 ・学校は授業数を確保することに苦労している。朝から放課後まで教室から離れられないため、膀胱炎になる職員も少なくない。少しでも教職員にゆとりが持てるように2学期制を継続してほしい。
石井	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者のアンケートの数値では3学期制がよいとの傾向が強いが、声としては学校の教職員の負担のないようにしてもらいたいという記述意見も多くあった。数値には表れない保護者の傾向も見られた。 ・中学校の保護者には、2学期制がいいという割合が小学校に比べると多い。中学校は成績について学校の裁量で工夫している学校が多いことによる成果ではないか。小学校でもさらに工夫していくことが必要と感じた。保護者にとって、子供にとって良い方向になると良い。
進行	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者の意見は感覚的なものが多い。独自に調べ、2学期制の良さを感じている保護者の意見もあった。石井課長の発言にあったように、子供たちにとって何が一番大事なのかを考えるのが大切であると感じている。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>(2) 今後について</p> <p>①日程</p> <p>②第4回懇談会に向けて</p> </div>	
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・日程について説明。 ・3月の第6回には、懇談会としてのまとめや確認をしていきたい。 ・これまでの内容から課題や懇談内容の案を示した。第4、5回での今後の議題について意見があれば出していただきたい。
進行	<ul style="list-style-type: none"> ・今後の議題について、案を参考に順番にご意見を伺いたい。
堀	<ul style="list-style-type: none"> ・「児童生徒によってよりよい学期制」ということを基本にすすめてほしい。時間数の確保について具体的な例なども紹介していただきたい。時間数の確保の現状を共有しながら検討していきたい。
栗畑	<ul style="list-style-type: none"> ・空調設備が完備されて、長期休業の扱いを変えることは学校管理運営規則を変え

	<p>なければならないので、そこまでは考えたくない。方向としては2学期制を継続していこうという流れですすめていきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・成績評価の出し方についての先ほどの意見は、全校の内容ではなく、ある学校の例である。現実的に各校の通知表の出し方等の違いが分かるとよい。
遠藤	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの2学期制のメリット、デメリットがよく分からないとのアンケート結果が出ているので、成果、課題を明確にして今後の検討に生かしていきたい。
初瀬川	<ul style="list-style-type: none"> ・教育長の常に口にされている「子供ありき」を大事にして、子供にとってよりよい学期制を念頭におきたい。 ・教頭会では成績評価や配付について集約しているので、そのような資料を用意してもよい。 ・2学期制のよい点をもっとアピールする方法などの対応を考えていきたい。
八木	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒にとって、よりよい学期制を考えていきたい。 ・保護者の関心事は成績表なので、成績の取り扱いについて、各校の現状を把握したい。
岩田	<ul style="list-style-type: none"> ・子供たちにとってよりよい学期制とは何かをもとに考えていきたい。 ・アンケートの意見を生かすためにも、今までの2学期制についての成果と課題についてはしっかりと伝えていく必要がある。
中村	<ul style="list-style-type: none"> ・子供が落ち着いて安心して生活できることを第一優先にしたい。 ・保護者の意見をどのように反映していくかを検討していきたい。
本多	<ul style="list-style-type: none"> ・進路指導用の成績を伝える時期等は決められているが、生徒にいつ成績評価を伝えていくのが良いかについて深めていきたい。
寺内	<ul style="list-style-type: none"> ・案としてまとめられているもの以外にも検討する内容があるかもしれない。この懇談会はいろんな意見を出し合うのが大事だと思っている。いずれにしても、児童生徒にとってよりより学期制を柱に話し合っていきたい。
上村	<ul style="list-style-type: none"> ・第6回までであるので、第4回では学期制にとらわれず、柔軟にいろいろな視点で意見が出せ合えればよいを思う。
大木	<ul style="list-style-type: none"> ・親としては学期制の実感はあまりない。中学校と小学校で別に考えるということも検討したい。 ・授業数が増えたとの話が出ているが、小学校は下校が早い日が多い印象がある。もっと調整すれば、授業時間が確保できるのではないかと。
土谷	<ul style="list-style-type: none"> ・成績は中学校の方が保護者も気にする部分がある。学校ごとのやり方もあるだろうが、保護者のネットワークもあるので、混乱や要望も出る可能性もあるので、学校間の共有も必要と感じた。

	<ul style="list-style-type: none"> 先生の多忙化については、部活動の問題もあると思うが、学校で解決できないこともあるのではないかと。保護者代表として協力できることも伺い、力になれることやできることをしていきたい。
石塚	<ul style="list-style-type: none"> 学期の終わりに成績評価をすることがどうしてもつながってきて、一番大きな要素だと思う。小学校、中学校で要望が異なり、入試もある中学校の方がより高まる。成績について細かく示してほしいという要望が出てくる。 長期休業前の教育相談の実態や工夫を共有することやよい事例を紹介してもらうのもよい。それらを今後の検討の材料にしていきたい。
進行	<ul style="list-style-type: none"> 成績評価や配付等の現状を共有したいという意見があった。事務局で準備して設定してもらう方向でよいか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> よい。 これまで2学期制について、各校で様々な運用がされている。給食や施設等も加味しながら検討していかなければいけない。
4 閉会 ○事務局から 説明	<ul style="list-style-type: none"> 皆様は組織の代表として参加されているので、組織における情報の共有を引き続きお願いしたい。そのために必要な資料等があれば事務局にお伝えいただきたい。